

○一般社団法人日本森林学会 2017 年度第 3 回（通算第 462 回）理事会議事録

日時：2017（平成 29）年 9 月 14 日（木）13:00～17:00

場所：北海道札幌市 北海道大学農学部 S103 会議室

開催者：中村太士

出席者：会長）中村太士，副会長）黒田慶子，田中浩，理事）堀靖人，竹中千里，後藤純一，丸山温，太田祐子，佐藤宣子，大久保達弘，大河内勇，平田泰雅，井出雄二，井上真理子，主事）山川博美，小田智基，伊東宏樹，宮本和樹，園原和夏，事務局）稲村崇子

議長：中村太士

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 第129回大会における学会企画について

小島理事の代理として宮本主事から、「観光・レクリエーション」およびその周辺分野のあり方について、広く会員からの意見を募り議論を行うため、「観光レクリエーション分野のあり方検討会」（責任者：田中伸彦会員（東海大学））が提案され、学会企画として開催することが承認された。黒田副会長から、大学院進学後に公立研究機関，行政機関への就職に関する企画，また正木理事の代理として堀理事から，英語論文の執筆および子育て・家庭円満と論文執筆に関する企画が提案され，学会企画として承認された。

2. 「岐阜大学流域圏科学研究センター」を共同利用・共同研究拠点として文部科学省から認定を受けるための要望書の提出について

堀理事から，岐阜大学流域圏科学研究センター長の栗屋善雄会員から文部科学省の共同利用・共同研究拠点としての認定に関し，日本森林学会から文部科学省に対して要望書を提出し支援して欲しいとの要請があり，要望書の提出について提案された。他の学会への要請状況や具体的な要請内容，認定された際の森林学会および会員への利益などの説明が不十分なため，これらの点について明らかにした上で再度審議を行うこととされた。

3. 選挙管理委員の委嘱について

堀理事（選挙管理委員長）から，選挙管理委員を山川博美主事（総務担当；森林総研），大橋伸太主事（会計担当；森林総研），小田智基主事（JFR編集担当；東京大学）に委嘱することが提案され，提案の通り承認された。

4. J-STAGE における学会および記事の紹介について

丸山理事から，J-STAGE の日林誌トップページで学会の紹介について森林学会ウェブサイトの紹介文を利用すること，おすすめ記事として論文賞の論文および論文の紹介に論文賞の推薦文を利用することが提案され，提案の通り承認された。

5. 森林科学の「著作権における著者に許容される権利」の条文の改訂について

太田理事から，CiNiiからJ-STAGEへの移行に伴う「著作権における著者に許容される権利」の条文の改訂について提案され，提案の通り承認された。

6. 森林科学の複写権に関わる条文の改訂について

太田理事から、森林科学53号から80号に掲載されているコラム「森の休憩室II 樹とともに」の著作権移譲に伴う複写権の委託対象の変更を受け、複写権に関わる条文の追加について提案された。著作権の譲渡について、著作権の共同保有で対応できないかなどの議論がされ、再度、出版社と著作権の委譲について検討することとなった。

7. 森林科学の巻頭言について

太田理事から、2月号の巻頭言として沖長官に寄稿を依頼することが提案され、提案の通り承認された。

8. 企画委員の選任について

佐藤理事から、黒田慶子（副会長）、堀 靖人（総務担当理事）、小島克己（プログラム編集委員会委員長）、正木 隆（表彰担当理事）の各氏を企画委員として選任することが提案され、提案の通り承認された。

9. フューチャーグリーン 2050（植物資源環境技術の研究開発 2）について

大河内理事から、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター（CRDS）より俯瞰ワークショップの報告書「フューチャーグリーン2050」の作成を受け、予算化に向けて進めたいとの意向が示され、森林学会に対して学会での該当研究分科会の有無、該当研究者の有無と研究内容、見込まれる成果、学会が参加可能な研究体制内容に対してヒアリングがあったことが報告された。森林学会で対応できる研究内容や体制、予算規模などについて意見が交わされ、学会としてプロジェクトチームの設置を念頭に執行部を中心に検討することとなった。また、関連して自然災害などが発生した際に学会として災害対応チームを早急に組織することが必要との意見が出され、継続審議となった。

10. ケニア森林学会との MOU 締結について

平田理事から、ケニア森林学会より MOU 締結の打診があったことが報告され、MOU の具体的な内容や会員とケニアとの具体的な交流実績の有無などについて意見が出された。現在、ケニア森林学会に対して締結後に日本森林学会に期待することなどを確認しており、この回答および交流実績などを確認し、判断することとなった。

11. 前回までの議事録の承認

堀理事から、2017年度第2回理事会、第2回メール理事会、第3回メール理事会の議事録が提案され、提案の通り承認された。

12. 次回理事会の開催次期について

次回理事会は連携学会長合同会議と併せて12月に開催することになった。

報告事項：

1. 第129回大会（高知大学）の準備状況

後藤理事から、市民公開シンポジウム「林業大学校—その役割と目指すもの—」のコーディネーターを鹿児島大学の枚田邦宏会員にお願いしていること、懇親会はプログラムの都合で開始時間を18時30分に変更したこと、などの準備状況について報告された。

2. プログラム編成担当からの報告

小島理事の代理として宮本主事から、公募セッション9件、企画シンポジウム15件の申し込みがあったことが報告された。また、会員の興味が重なりそうな公募セッションや企画シンポジウム、部門別発表を同一時間帯に配置しないこと、懇親会が開催される3月27日については、なるべく早く口頭発表を終了し、すべての発表を17時30分までに終わらせることを考慮しながらプログラムを編成していることが報告された。

3. 中等教育連携推進担当からの報告

井上理事から、第129回大会における高校生ポスター発表の準備状況が報告された。国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」からの助成事業であること、大日本山林会の協賛で記念品を製作すること、参加賞として森林科学を配布すること、参加する高校生向けに「森林・林業の専門教育の紹介」として全国林業短期大学校連絡協議会の協力を得て大会当日に説明会の開催すること、などが報告された。

4. 第130回大会（新潟大学）の準備状況

第130回大会運営委員会の紙谷智彦委員長の代理として堀理事から、新潟大学を中心に新潟県森林研究所からの参加も得て大会運営委員会を組織したこと、会期は2019年3月20～23日、新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」を会場とすることが報告された。

5. 代議員、理事、監事選挙の実施について

堀理事（選挙管理委員長）から、2018～2019年度の代議員・役員選挙を、前回同様に電子投票システムを用いて行うこと、若手・女性代議員選出の促進をお願いすることが報告された。若手・女性代議員選出の促進については、若手・女性だけでなく多様な代議員を選出するため、公設試験研究機関など大学や森林総研に偏らない配慮をお願いするなどの意見が出された。

6. 総務担当からの報告

堀理事から、公益財団法人PHOENIX（木材・合板博物館）の助成事業について、「研究発表助成」から「研究助成」に変更することとなり、対象も木材学会関係者から募集を行うということが同法人の理事会で8月に決定され同法人による森林学会に対する「研究発表助成」は昨年度までとなったことが報告された。

7. 日林誌編集担当からの報告

丸山理事から、特集企画「マツ枯れ防除の盲点としての潜在感染木」の内容、現在の編集状況、日林誌では原著論文の投稿数が少なく短報が増えていることが報告された。また、WEB of ScienceやScopesへの収載の進捗状況についても報告があった。

8. JFR編集担当からの報告

福田理事の代理として小田主事から、現在の編集状況、特集「福島原発事故後の森林生態系での放射性セシウム動態：初期5年間の経験」を22巻6号（12月発行）に掲載予定で編集を進めていることが報告された。

9. 森林科学編集担当からの報告

太田理事から、現在の編集状況、J-STAGEへの移行作業の進捗状況、バックナンバーの有効活用について学会への入会や購読の促進、学会員による森林に関連する教育・普及、学会の関連事業（高

校生ポスター・林業遺産など)の促進などの目的で無料配布し有効活用することになり、現在までに大学や森林総研の一般公開やその他のイベントで活用されていることが報告された。

10. 広報担当からの報告

宮本理事の代理として伊東主事から、ウェブサイトのSSL化作業が完了したこと、メールマガジン84~88号を発行、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新を行ったことが報告された。

11. 表彰担当からの報告

正木理事の代理として堀理事から、日本学術振興会育志賞および科学技術賞・若手科学者賞は応募がなかったこと、日本農学進歩賞に1名を学会として推薦したこと、学会各賞は9月29日締め切りで推薦を受け付けていること、高知大会での学生ポスター賞について昨年と同様の方法で行う予定であることが報告された。日本学術振興会育志賞は積極的に応募して欲しいとの意見があった。

12. 企画・林業遺産選定担当からの報告

佐藤理事から、2016年度までの林業遺産の選定数、2017~2018年度的林業遺産地区推薦委員として、石橋 聡(北海道;森林総合研究所北海道支所)、林 雅秀(東北;山形大学)、山本伸幸(関東;森林総合研究所)、奥 敬一(中部;富山大学)、大住克博(関西;鳥取大学)、福島敏彦(九州;元福岡県林業試験場)の各氏を選出したこと、2017年度的林業遺産選定のスケジュール、選定された林業遺産の保存・活用について第129回大会で企画シンポジウムと公募セッションに申請したこと、8月26日に宮崎県日南市で「林業遺産飢肥林業フォーラム」が開催されたことが報告された。また、堀理事から来年5月のシンポジウムのテーマとして林業遺産を考えていると報告され、第129回大会でのシンポジウムの内容と重なる部分はあるが関東近辺的林業遺産について講演をお願いしてはどうかなどの意見が出された。

13. JABEE 担当からの報告

大久保理事から、JAFEE(森林・自然環境技術者教育会)の運営体制の見直しについて報告された。

14. 社会連携担当からの報告

黒田副会長から、丸善出版社より「森林学の百科事典(仮題)」の出版について森林学会として企画・編集に協力可能かどうか打診があったことが報告された。編集体制の組み方や出版の意義などが議論され、学会として進める方向で検討することとなった。

15. 国内研究機関連携担当からの報告

井出理事から、「森林・林業関係試験研究機関の現状と研究推進上の課題に関するアンケート調査」の結果が報告され、結果の公表についてはウェブサイトを活用すること、利活用については、連携学会でのセミナーの実施や学会大会での報告などの意見が出され、国内研究機関連携担当および企画担当でさらに検討することとなった。

16. 会計担当からの報告

竹中理事から、第128回大会(鹿児島大学)の決算が報告され、約94万円の収入超過となり、超過分は本部会計「指定正味財産(大会準備引当資産)」に繰り入れたことが報告された。また、2017年度8月31日までの半期決算、日林誌と森林科学の印刷数の調整を実施したこと、年会費の

自動引落の推進を実施したことが報告された。

17. その他

堀理事から、日本農学会シンポジウム「大変動時代の食と農」について、森林学会からは大丸裕武会員（森林総研）が講演することが報告された。

議事録作成者：堀靖人，山川博美